

3. 環境影響評価の項目

選定しました環境影響評価の項目について御説明いたします。

■ 環境影響評価項目の選定

環境影響要因		工事中			存在・供用時			
		稼働 建設機械の	車両の走行 資材運搬等の	造成等の工事	施設の存在	施設の稼働	走行 自動車等の	
調査・予測・評価の項目								
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	●	●			●	●	
	騒音・低周波音	●	●			●	●	
	振動	●	●			●	●	
	悪臭					●		
	水質	公共用水域の水質			●		×	
		底質					×	
		地下水の水質						
	水象							
	土壌				●		●	
		地盤						
地象					×			

赤文字となっているところが、本事業における環境影響要因を考慮して選定した環境影響評価の項目になります。

大気質ほか全部で15項目を選定しています。

こちらの表では、大気質、騒音・低周波音、振動、悪臭、水質、土壌を選定しています。

なお、本施設では稼働に伴うプラント排水等の処理水の河川放流は行わないため、水質の底質については選定しておりません。

■ 環境影響評価項目の選定 (2)

調査・予測・評価の項目	環境影響要因	工事中			存在・供用時		
		稼働 建設機械の	車両の走行 資材運搬等の	造成等の工事	施設の存在	施設の稼働	走行 自動車等の
生物の多様性の確保 及び自然環境の体系的 保全を旨として調査、 予測及び評価される べき項目	動物		●		●		
	植物				●		
	生態系		●		●		
人と自然との豊かな ふれあいの確保及び 快適な生活環境の保全 を旨として調査、予測 及び評価されるべき 項目	景観				●		
	自然との ふれあいの場		●		●	●	
	史跡・文化財				×		
	日照障害				●		
	電波障害				●		
	風害						

動物、植物、生態系、景観、自然とのふれあいの場、日照障害、電波障害を選定します。

なお、既存資料調査により、対象事業実施区域内では埋蔵文化財の存在は確認されなかったことから、史跡・文化財は選定していません。

■ 環境影響評価項目の選定 (3)

環境影響要因 調査・予測・評価の項目	工事中			存在・供用時		
	稼働 建設機械の	車両の走行 資材運搬等の	造成等の工事	施設の存在	施設の稼働	走行 自動車等の
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等		●		●	
	温室効果ガス等				●	●
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量					
	×	×				

廃棄物等、温室効果ガス等について選定します。
 なお、放射線の量については、特に放射性物質を含む土砂の掘削、運搬はないことから選定しておりません。

4. 調査、予測、評価の手法等

調査、予測、評価の手法等について御説明いたします。

4-1. 調査

- ・事業の実施により環境への影響が及ぶおそれがあると想定される地域を対象に、**既存資料の収集及び現地調査**により行います。

	調査項目	調査地域・地点	調査期間等
大気質	一般環境大気質 (二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、炭化水素、塩化水素、ダイオキシン類、水銀)	対象事業実施区域内 1地点及びその周囲の 住宅地付近4地点	4季各7日間 連続
	沿道環境大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、炭化水素)	資材運搬等の車両及び ごみ収集車両等の主要 な走行経路上の1地点	4季各7日間 連続
	降下ばいじん	対象事業実施区域内 1地点	4季各1か月
	地上気象 (風向・風速、気温・湿度、日 射量、放射収支量)	対象事業実施区域内 1地点	1年間の通年 観測
	上層気象 (風向・風速、気温)	対象事業実施区域内 1地点	4季各7日間 連続

対象事業の実施により環境への影響が及ぶおそれがあると想定される地域を対象に、既存資料の収集及び現地調査を行います。

大気質については、一般環境大気質として、二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、炭化水素、塩化水素、ダイオキシン類、水銀について、対象事業実施区域内1地点及びその周囲の住宅地付近4地点において、4季各7日間連続の測定を実施します。

沿道環境大気質として、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、炭化水素について、主要な走行経路上の1地点で、4季各7日間連続の測定を実施します。

降下ばいじんについては、対象事業実施区域内1地点で、4季各1か月の試料採取を実施します。

予測条件を設定するために、対象事業実施区域内1地点で風向・風速、気温・湿度、日射量、放射収支量の通年観測を行うほか、上空1500メートルまでの風の分布を調べるため、上層気象の調査を対象事業実施区域内1地点で4季各7日間連続で実施します。

4-1. 調査 (2)

	調査項目	調査地域・地点	調査期間等
騒音・低周波音・振動	環境騒音、低周波音、環境振動	対象事業実施区域の敷地境界4地点	平日・休日各1回(24時間連続)
	道路交通騒音、道路交通振動、交通量、走行速度	資材運搬等の車両及びごみ収集車両の主要な走行経路上の3地点	平日・休日(土曜日)各1回(6時~22時)
悪臭	臭気指数、特定悪臭物質	対象事業実施区域の敷地境界2地点(風上・風下)及びその周囲の住宅地付近4地点	夏季・冬季各1回
水質	浮遊物質、水素イオン濃度、	対象事業実施区域からの排水口1点、排水の流入が考えられる河川の上流1点下流2点	灌漑期の平水時1回 降雨時1回、非灌漑期の平水時1回、降雨時1回

騒音・低周波音・振動については、環境騒音・低周波音・環境振動として、対象事業実施区域の敷地境界4地点において、平日・休日各1回、24時間連続の測定を行います。

また、道路交通騒音・振動、交通量等として、主要な走行経路上の3地点において、平日・休日(土曜日)各1回6時~22時の16時間の連続で測定を行います。

なお、土曜日はごみの搬入はありませんが、工事を実施する可能性があるため、測定を実施いたします。

悪臭は、臭気指数、特定悪臭物質について、対象事業実施区域の敷地境界2地点(風上・風下)及びその周囲の住宅地付近4地点において、夏季・冬季各1回、試料採取と分析を行います。

水質については、工事中の排水の影響を予測するため、浮遊物質、水素イオン濃度について、対象事業実施区域からの排水口1点、排水の流入が考えられる河川の上流1点下流2点、灌漑期の平水時1回降雨時1回、非灌漑期の平水時1回、降雨時1回、試料採取と分析を行います。

4-1. 調査 (3)

	調査項目	調査地域・地点	調査期間等
土 壌	第二種特定有害物質 9項目 ダイオキシン類	対象事業実施区域内 の旧深谷清掃セン ター敷地	1回
	ダイオキシン類	対象事業実施区域の 周囲の4地点	1回
景 観	主要な眺望景観の状況 主要な眺望地点の状況	対象事業実施区域及 びその周囲の4地点	春季、夏季、秋季、 冬季
自然との ふれあいの 場	自然とのふれあいの場 の資源状況、周辺環境 の状況等 自然とのふれあいの場 の利用状況 自然とのふれあいの場 への交通手段の状況	対象事業実施区域及 びその周囲の1地点 (深谷グリーンパー ク)	自然とのふれあいの 場への影響の予 測、評価に必要な 内容を適切かつ効 果的に把握できる 時期

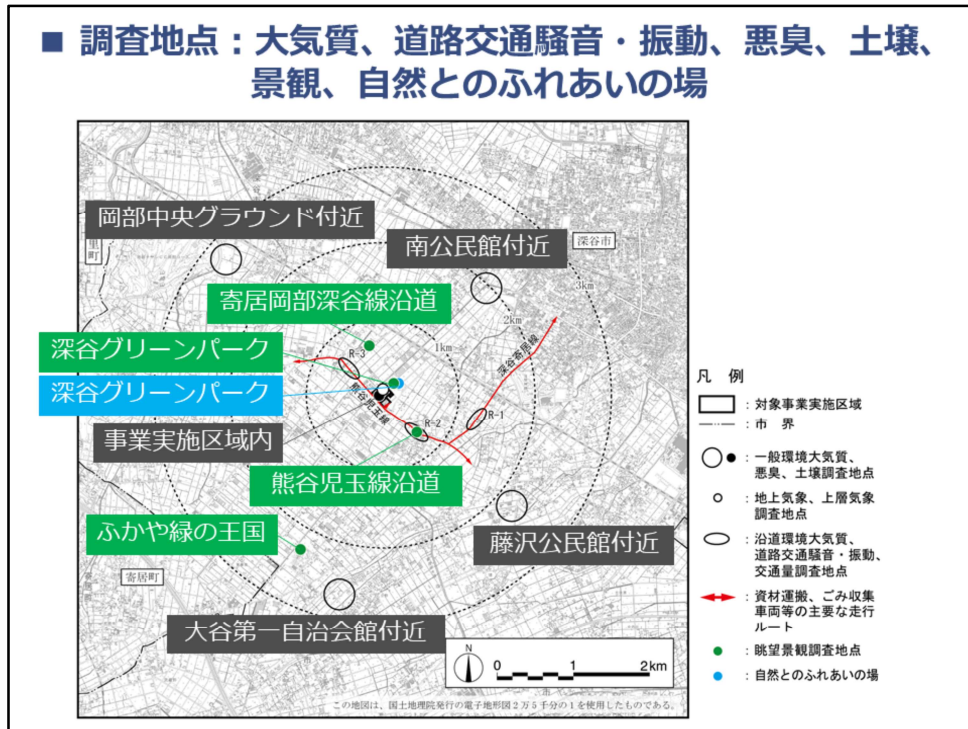
土壌については、対象事業実施区域の一部が、地歴調査の結果、土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査が必要となる区域となっているため、本施設を整備する範囲について、その調査を実施します。

また、煙突から排出されるダイオキシン類の沈着による影響を調査するため、対象事業実施区域の周囲の4地点において、濃度測定を実施します。

景観については、主要な眺望景観及び眺望地点の状況を、深谷グリーンパークを含む対象事業実施区域の周囲において、4季節現地踏査及び写真撮影を行います。

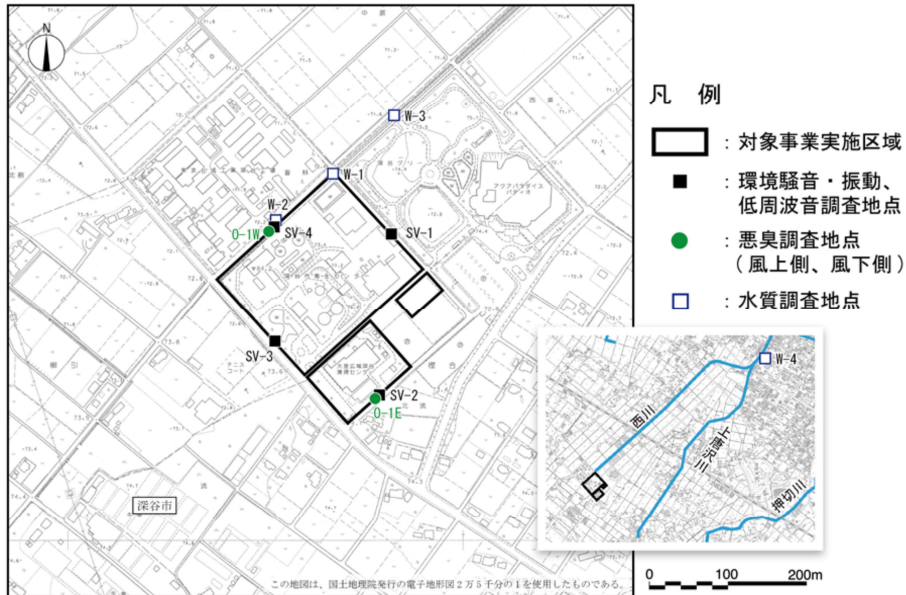
自然とのふれあいの場については、深谷グリーンパークを対象に利用状況や周辺環境の状況、交通手段の状況について調査を実施します。

■ 調査地点：大気質、道路交通騒音・振動、悪臭、土壌、
景観、自然とのふれあいの場



これまで御説明しました大気質、道路交通騒音・振動、悪臭、土壌、景観、自然とのふれあいの場の調査地点はこちらの図のとおりでございます。

■ 調査地点：環境騒音・振動、低周波音、
悪臭（敷地境界）、水質



こちらは、環境騒音・振動、低周波音、悪臭（敷地境界）、水質に係る対象事業実施区域の敷地境界及び直近の調査地点となります。